

軽度思春期特発性側弯症 が改善した一症例

公益社団法人 長野県柔道整復師会
原接骨院 原 隆

【目 的】

平成14年と27年の本学会で、軽度の思春期特発性側弯症の報告をしたが、新たな症例の改善が確認できたため報告する。

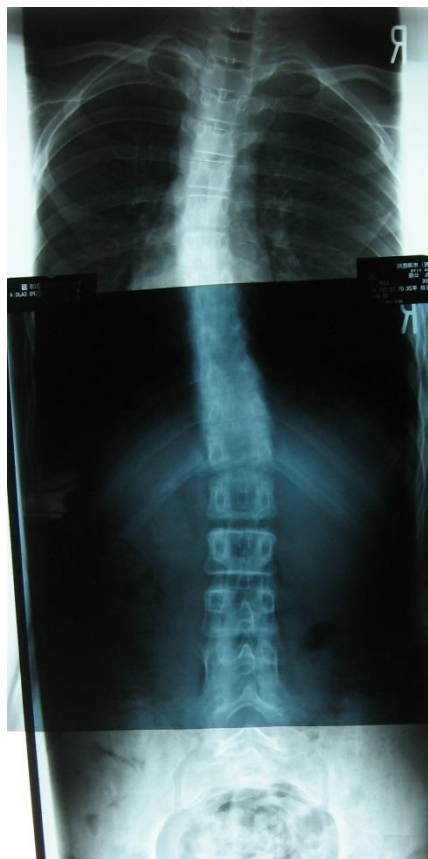
【対 象】

I K : 医師より紹介された男子、13歳（中2）

初検：平成28年5月21日

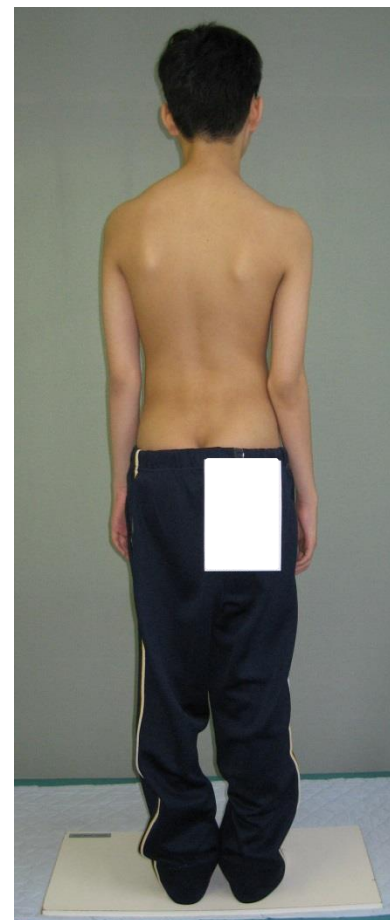
現病歴：学校検診を機に平成28年 5月12日に
整形外科で検査。Cobb角16.0度で
「脊柱側弯症」と診断される。

【初検時】



胸椎左側弯Cobb角
(Th5~Th11) **16.0度**

平成28年5月12日



初検：平成28年5月21日

【方 法】

前回報告した大塚乙衛氏考案によるR H P I 療法（月に1回）、体操療法（原則毎日実施）を継続しながら、定期的なX線検査の結果と、立位背面での外見所見を比較し考察した。

【RHP I 療法について】

側弯症矯正具



■側弯症矯正具の**使用前**
腰椎Cobb角約**40°**

■側弯症矯正具の**使用時**
腰椎Cobb角約**30°**

【体操療法について】

鍛練運動

入浴、夕食前に行う

11 足あげ腹筋 50回



12 両手足運動 50回



13 背筋伸ばし運動 20回



14 背筋、10秒を10回



正しい正座



基本運動

特に、就寝前に行うとよい

6 膝を立て、左右に倒す。50~100回



7 足を伸ばして左右に振る。50回



8 足を伸ばして上げ下げする。50~100回



9 足を伸ばして開いたり閉じたりする。50~100回



10 自転車こぎ。前後合わせて50~100回



1 腰伸ばし、ヒザ抱え運動を50~100回



2 腰伸ばしを10分間



3 1をする



4 正座の姿勢から、仰向けになる。5~7分間

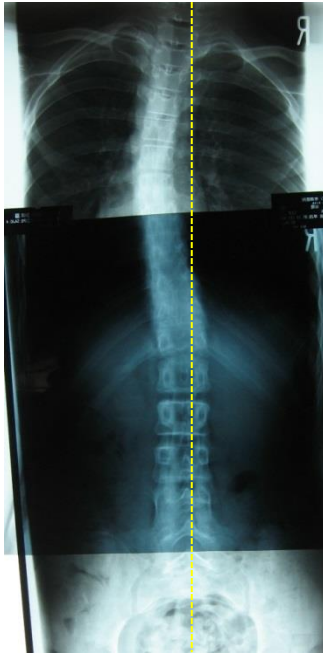


5 再び1をする

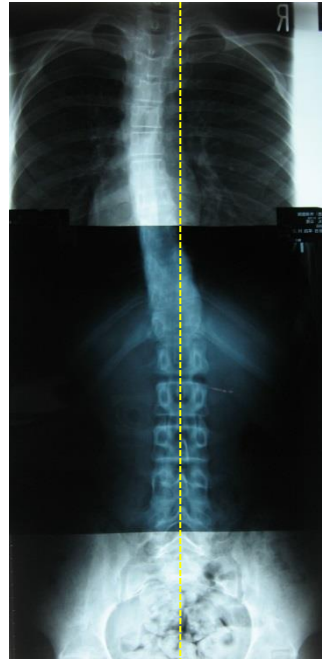


【結果 1 X線所見】

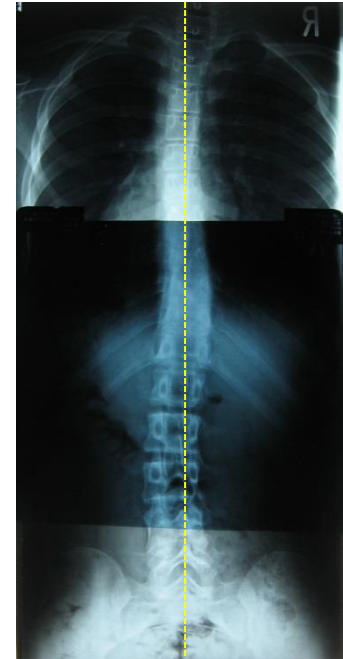
＜初検時＞



平成28年5月
胸椎左側弯
Cobb角 **16.0°**



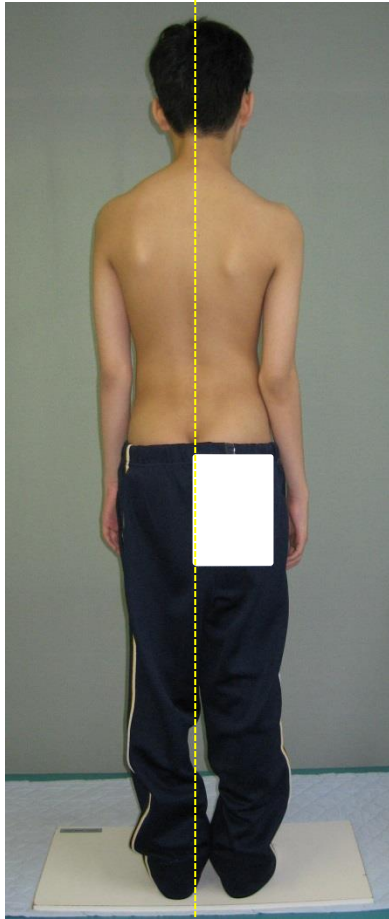
平成28年11月
胸椎左側弯
Cobb角 **14.0°**



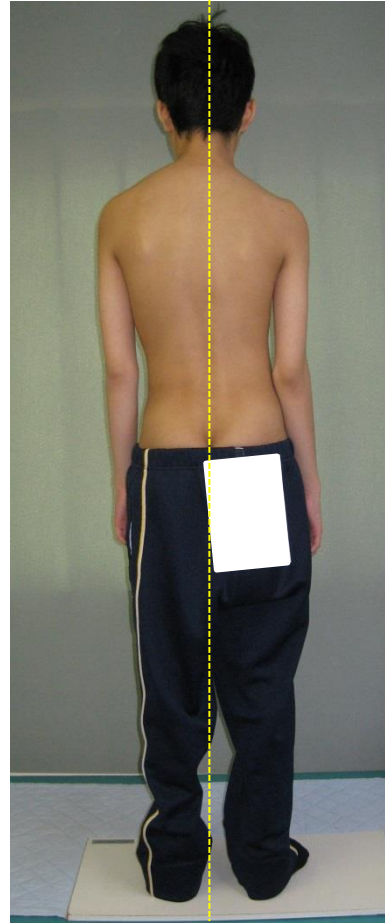
平成30年2月
胸椎左側弯
Cobb角 **6.0°**

【結果 2 外見所見】

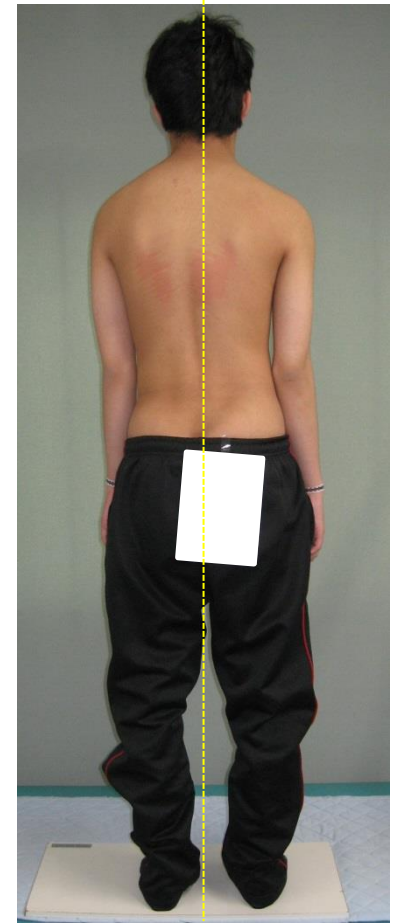
＜初検時＞



平成28年5月



平成28年11月



平成30年2月

【考 察】

治療開始から約 2年となるが、X線検査で有意差の判断指標とされる 5度以上改善し、正常範囲内とされている10度未満になった結果から本症例は、この治療法が有益だったと考える。

改善した要因としては、シングルカーブで回旋変形や彎曲度が軽度の状態で、早期発見・早期治療ができたこと。

また特発性側弯症の多くは、疼痛等の自覚症状が少ないことから、治療を開始しても毎日の体操に対する動機付けが難しく、中止するケースもあるなか、患者また家族の改善したいという強い意志が一貫していたことも推察する。

ただし成長期でもあることから、今後も継続し、治療終了の判断は Risser signも含め医師の診断が重要と考える。

【結 語】

1. 軽度思春期特発性側弯症に、RHP I 療法、体操療法の併用治療は一症例ではあるが有用であった。
2. この治療法を行うにあたっては、整形外科医との連携が必要不可欠である。
3. 成長期においては再び悪化する可能性もあるため、継続的な治療が必要である。



ご清聴ありがとうございました